

平成30年3月期

決算説明資料

～運輸成績及び事業計画トピックス～

2018年5月9日

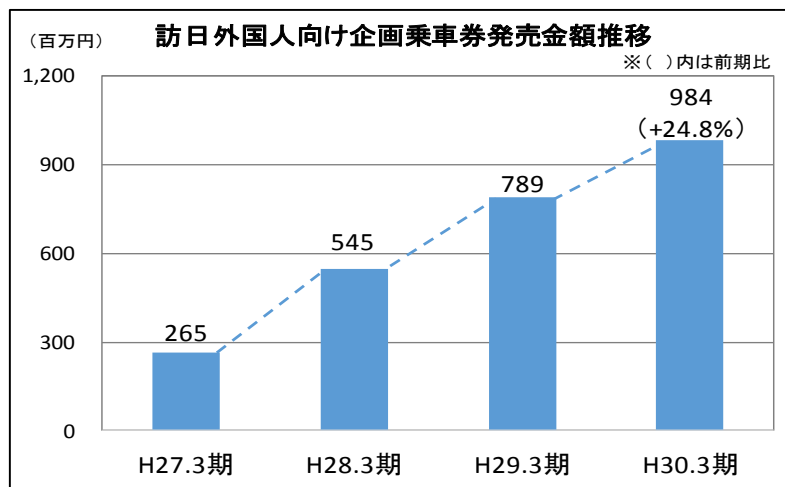
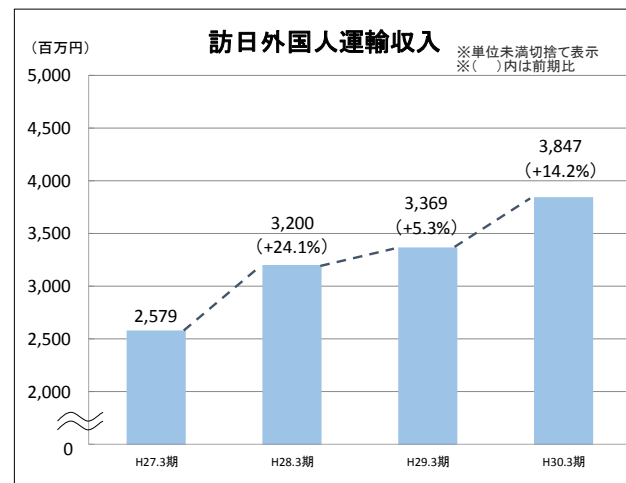
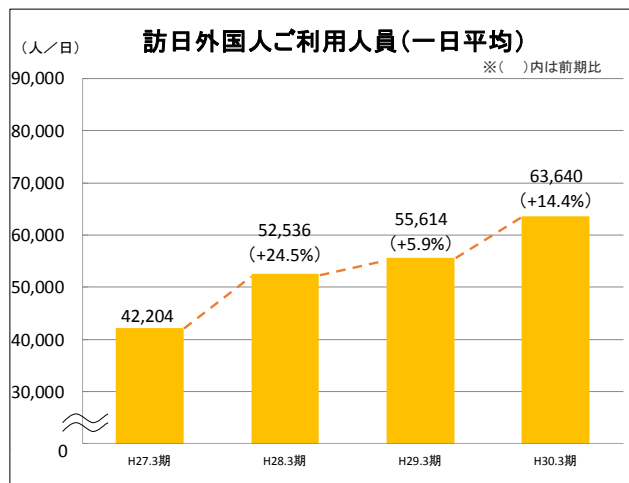
東京地下鉄株式会社



東京メトロ

平成30年3月期において、訪日外国人のご利用および 訪日外国人向け企画乗車券の発売額が引き続き増加しました。

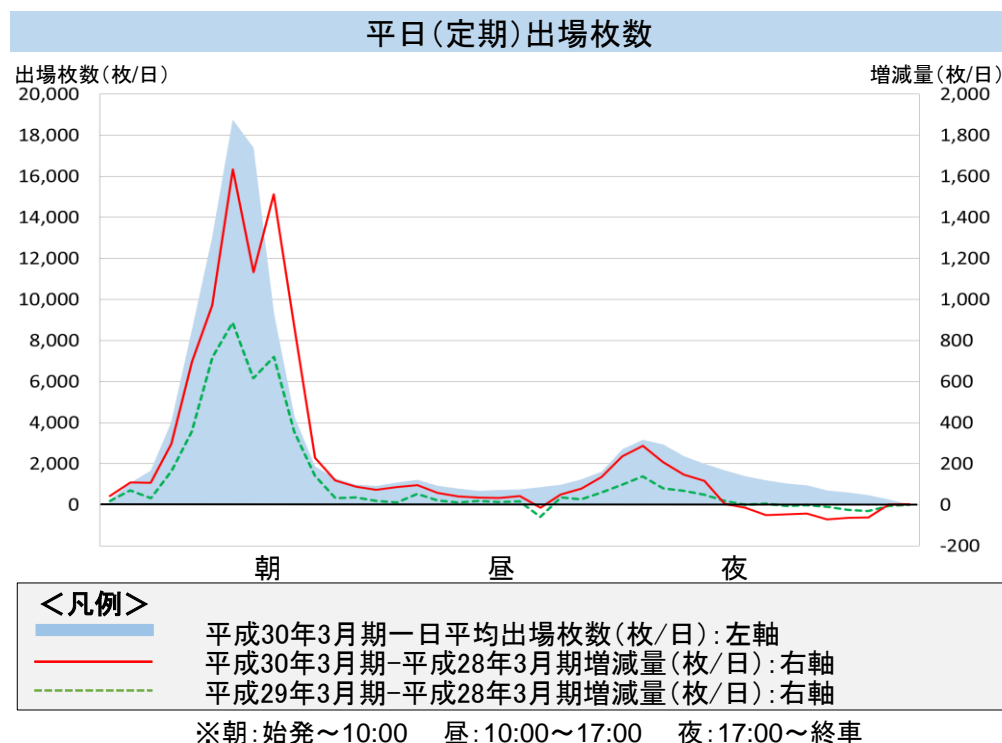
- 訪日外国人の運輸成績への影響につきまして、今期のご利用人員は一日平均約6.4万人、前期比で約0.8万人、14.4%の増加、旅客運輸収入は今期が38.4億円、前期比で4.7億円、14.2%の増加と推計しました。
- 訪日外国人向け企画乗車券の発売実績は、今期は9.8億円、前期比で1.9億円、24.8%増加しました。今期も前期に引き続き多くの訪日外国人のお客様にご利用いただいております。



※訪日外国人向け企画乗車券: Tokyo Subway Ticketのうち、羽田空港、成田空港、都内家電量販店、当社旅客案内所・一部定期券うりば等でパスポートを確認して発売したものと推計

大手町駅改札機データ(時間帯別)

- 大手町駅へ定期でご利用になるお客様の数が、前期と比較して今期は一日あたり約4,300人増加しました。
- 定期の改札機出場データにつきましては、出場枚数、増減量ともに平日朝のラッシュ時間帯で特に増加しました。
- 定期の出場枚数においては、7時台～9時台のご利用が主であり、8時台がご利用のピークとなっております。増減量においては、7時台や9時台のご利用も増加していることから、オフピーク時間帯に通勤されるお客様も増加したと推測しております。
- 当社では、東西線の大規模改良工事を着実に進めるとともに、引き続き「東西線早起きキャンペーン」を「時差Biz」と連携しながら継続実施することで、オフピーク通勤を促進し、混雑緩和を進めてまいります。

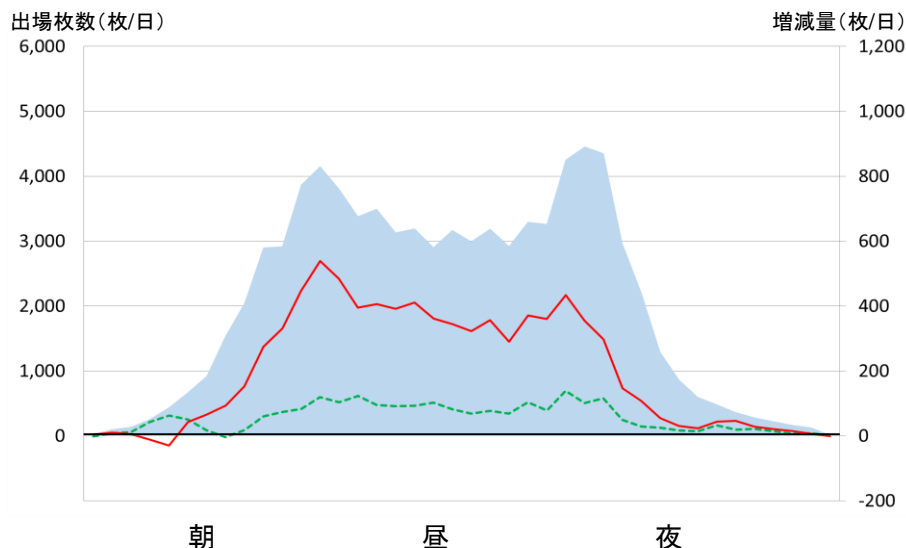


平成30年3月期において、銀座周辺の再開発により、
銀座駅を定期外でご利用されるお客様が平日・休日ともに増加しました。

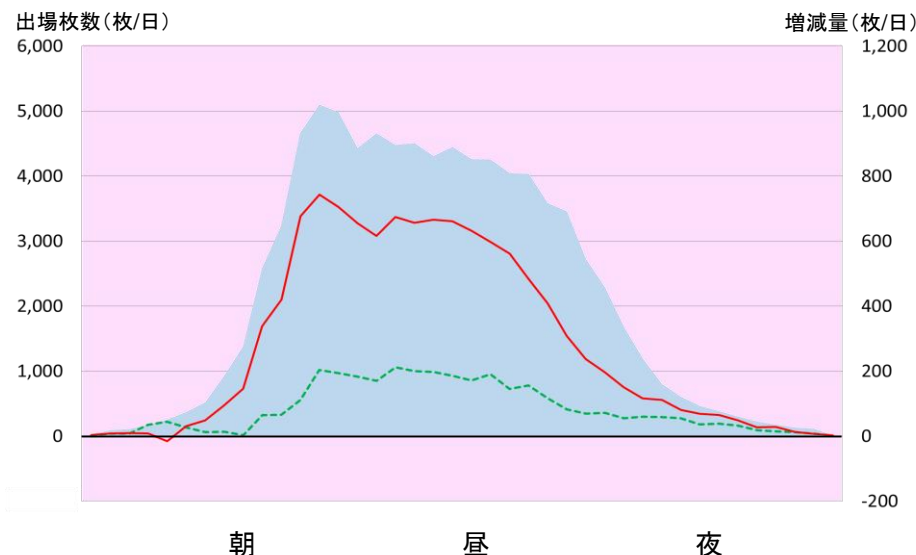
銀座駅改札機データ(時間帯別)

- 銀座駅へ定期外でご利用になるお客様の数が、前期と比較して今期は一日あたり約5,700人増加しました。
- 定期外の改札機出場データにつきましては、出場枚数、増減量ともにほぼ全ての時間帯で増加しました。特に休日のご利用が平日を上回っており、多くのお客様に銀座駅をご利用いただいております。
- 出場枚数につきましては、平日、休日ともに昼前のご利用がピークとなっており、買い物や昼食時間に合わせてご利用になっているものと推測しております。なお、平日は夕方にもご利用のピークがあり、仕事を終えてからの飲食及び買い物等でご利用になっているものと考えております。

平日(定期外)出場枚数



休日(定期外)出場枚数



<凡例>

- 平成30年3月期一日平均出場枚数(枚/日): 左軸
- 平成30年3月期-平成28年3月期増減量(枚/日): 右軸
- 平成29年3月期-平成28年3月期増減量(枚/日): 右軸

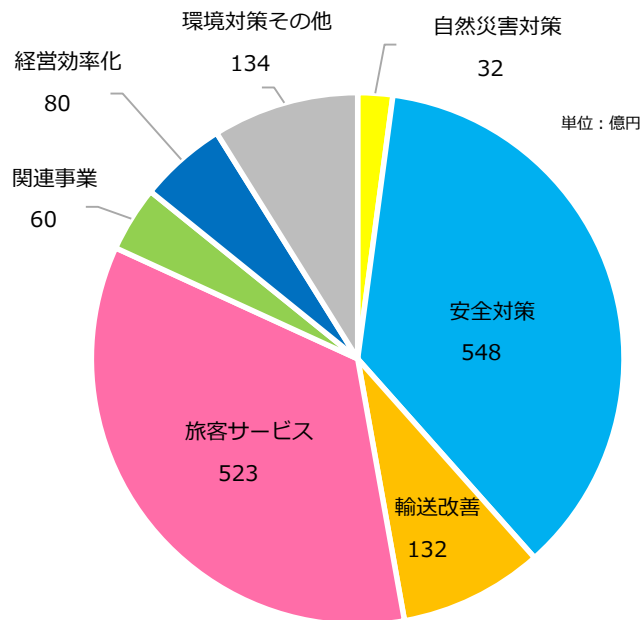
※朝: 始発~10:00 昼: 10:00~17:00 夜: 17:00~終車

2017年度 設備投資実績(当社)について

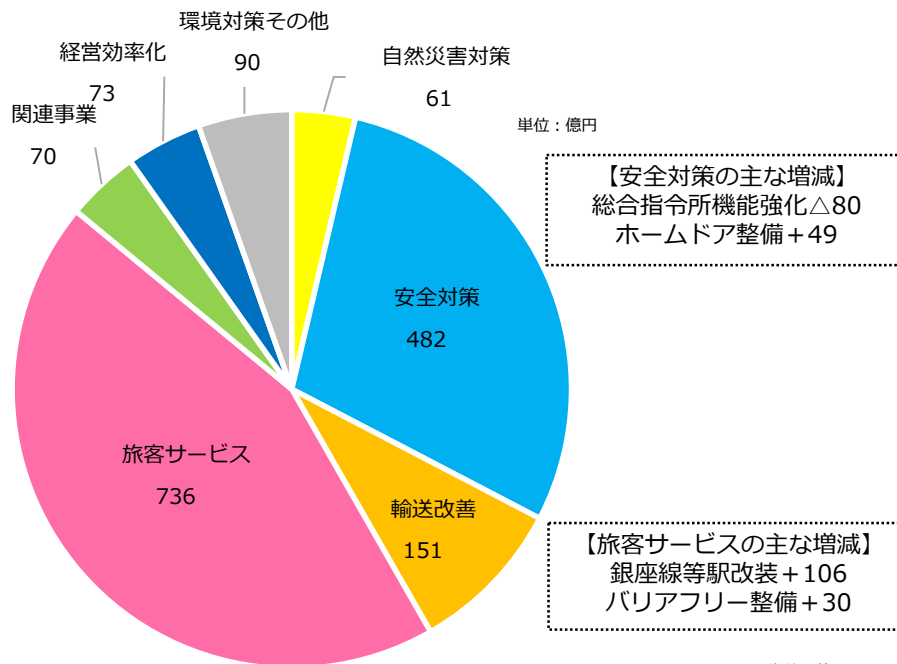
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後も見据え、 2017年度は、1,667億円の設備投資を実施しました。

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後も見据えた各種施策が進捗した2017年度は、2016年度と比較して156億円増加の、1,667億円の設備投資を実施しました。
- これまでに引き続き「自然災害対策」「安全対策」への設備投資を積極的に実施するとともに、お客様にこれまで以上に快適に駅をご利用いただけるよう、バリアフリー設備整備等を進めた結果、2016年度と比較して「旅客サービス」への投資が大きく増加しました。

2016年度設備投資実績 1,511億円

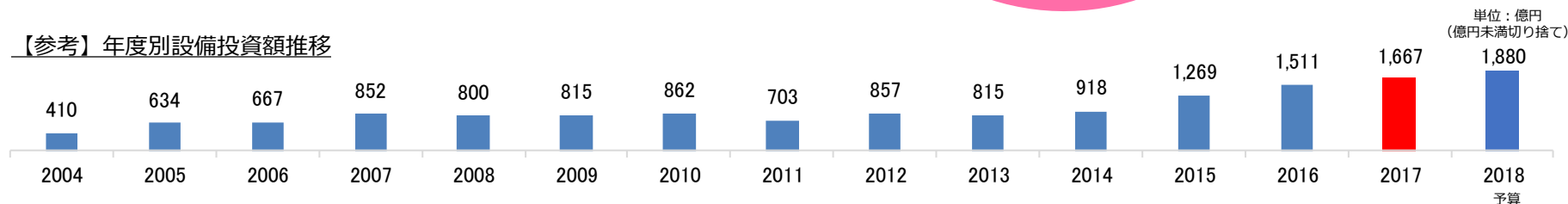


2017年度設備投資実績 1,667億円



前期比
+156億円

【参考】年度別設備投資額推移



東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）です。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後に向けた主な取り組み

東京2020大会とその後も見据え、各種施策の前倒し、追加、工程促進等のため、現中期経営計画期間中の設備投資額を、当初計画4,200億円から5,100億円に増額変更しました。

Keyword 1 世界トップレベルの安心でお出迎え

○全路線全駅へのホームドア整備の前倒し



- 2017年5月に半蔵門線、6月に東西線の整備計画の前倒しを決定、2025年度までに全路線全駅（179駅）のホームドア整備を進めていきます。

2020年夏時点
138駅（77%）整備完了

○バリアフリー設備整備の促進



- 全てのお客様に安心してご利用いただけるよう、エレベーター1ルート整備と多機能トイレ整備、さらには、競技会場最寄駅を中心に、エレベーター複数ルート、自線内や他社線との乗換ルートの整備を促進します。

2020年夏時点
EV1ルート 176駅（98%）整備完了
多機能トイレ 138駅（100%）整備完了

Keyword 2 地下鉄をわかりやすく快適に

○多言語情報・情報環境の更なる整備・充実



- 旅行者向け案内所の増設や自動券売機・自動精算機の7か国語対応、路線図から選択できる旅行者向け券売機の導入、車両内ディスプレイの増設、駅構内・車両内Wi-Fi環境の充実等、国内外問わず、全てのお客様へのご案内を充実していきます。

2020年夏時点
案内サインリニューアル 全駅完了
自動旅客案内装置リニューアル 全駅完了
トイレ全個室の洋式化 全駅完了
車両内Wi-Fiサービス 全保有車両導入完了

Keyword 3 沿線地域との連携、東京を楽しく

○虎ノ門新駅（仮称）



国家戦略特区HPより引用

- 「生活環境を備えた国際的なビジネス・交流拠点の整備」及び「交通結節機能の強化」の実現に向け、独立行政法人都市再生機構から工事等を受託し、新駅の整備を推進します。

2020年 新駅開業

○情報提供、イベント開催等

LIVE JAPAN
PERFECT GUIDE TOKYO



- 訪日外国人向けワンストップガイドサービス「LIVE JAPAN PERFECT GUIDE TOKYO」等を活用したエンターテインメント情報や沿線情報の提供を充実していきます。
- 沿線地域と一体となったイベントの開催や東京2020大会期間中における特別企画の実施等、東京の魅力の発信に努めていきます。

■ このほか、東京2020大会への推進体制を強化することを目的に「オリンピック・パラリンピック推進室」を設置しました。